



「酔画仙」

韓国映画の真髄

韓国映画の未来を背負う俊英たち
日本在住韓国人の女流ドキュメンタリー作家
そして韓国映画の精神を体現する監督
イム・グォンテク

青春映画から歴史超大作まで
韓国映画を味わいつくす2日間

■映画上映
2月24日[土]
日韓映画の新潮流
「まぶしい一日」
「URINARA 母のまなざし 息子の声」

2月25日[日]
巨匠イム・グォンテク[林権澤]と日本
すいがせん
「酔画仙」(映倫：R-18)
かいびやく
「開闢」

■講演会
2月25日[日]
「巨匠イム・グォンテクの世界」佐藤忠男

2007年
2月24日[土]・25日[日]
会場 青森県立美術館シアター

2月24日(土) 日韓映画の新潮流



まぶしい一日
2006年/韓国/133分/DVCam
プロデューサー：クァク・ヨンス
監督：キム・ソンホ
キム・ジョンガン
ミン・ドンヒョン
出演：森透江/杉野希妃/
キム・ドンヨン/
チョン・デファン/
イ・ソヨン/塩田貞治

済州島、ソウルと東京、そして仁川国際空港——それぞれの場所での、たった一日の出来事を描いたオムニバス青春映画。1970年代生まれの若い韓国人監督3人が、日本と韓国の若者たちの出会いと成長をみずみずしいタッチで描き、等身大の日韓関係を捉える。第10回釜山国際映画祭ワイド・アングル部門招待作品。



URINARA
～母のまなざし 息子の声～
2006年/韓国/60分/DV
監督：ハ・チンソン
制作：小野寺修平/黒部俊介
撮影：岡公介/斉藤慎二郎
編集：成瀬慧/遠山慎二
音楽：佐々木敏
出演：アン ユウサン

7年前、母と姉とともに韓国から日本に移り住んだアン・ユウサンは、高校3年になった時、韓国の徴兵へ行かなければならないことを知る。日本で生活しているのになぜ韓国に徴兵に行かなければならないのか？ 自分にとっての祖国 (URINARA) とは？ ユウサンの心の動きを、実の母であるハ・チンソン自らカメラで追ったドキュメンタリー。

2月25日(日) 巨匠イム・グオンテク[林権澤]と日本



酔画仙
2002年/韓国/119分/35ミリ
監督：イム・グオンテク
製作：イ・テウオン
原案：ミン・ビョンサム
脚本：イム・グオンテク/キム・ヨンオク
撮影：チョン・イルソン
音楽：キム・ヨンドン
出演：チェ・ミンシク/アン・ソンギ
ソン・イェジン/ユ・ホジョン
映倫：R-18

19世紀の朝鮮時代末期。貧民の出でありながら、筆一本で宮廷画家へのとぼりつめた実在の人物チャン・スンオプの実像に迫る人間ドラマ。酒と女を愛し「酔画仙」と称された無頼の画家の伝説と謎に包まれた生涯を、壮大なスケールで描く。主演は「シュリ」「オールド・ボーイ」のチェ・ミンシク。2002年カンヌ国際映画祭監督賞受賞。



開闢
1991年/韓国/146分/35ミリ
監督：イム・グオンテク
脚本：キム・ヨンオク
撮影：チョン・イルソン
出演：イ・ドクファ/イ・ヘヨン
パク・チフン/
キム・ミョンゴン
イ・ソック
(上映共催 韓国文化院)

李氏朝鮮時代末期、武力闘争まで発展した“東学党の乱”を題材にした歴史大作。東学の創始者チェ・ジェウの処刑や2代目教祖チェ・シヒョンの逃亡と抵抗、日本軍との熾烈な戦闘をとおし、自由と平等を求めた人々の姿を描く。3代目の教祖チョン・ボンジュを演じているのは『風の丘を越えて/西便制』で父親役を演じたキム・ミョンゴン。

2月25日(日) 講演会「巨匠イム・グオンテクの世界」



日本映画学校校長でもあるアジア映画の第一人者、佐藤忠男氏をお招きして、韓国の巨匠 イム・グオンテクと、その背景にある韓国文化についてのお話をさせていただきます。

イム グオンテク [林権澤]

1936年、全羅南道・長城生まれ。父親が左翼だったために辛酸をなめ、高等学校を中退。その後、数々の職業を転々とし、映画界入りする。1960年から今まで、韓国映画の生きた証人として100篇以上の映画を演出。1987年、『シバジ』でアジア太平洋映画祭監督賞、『風の丘を越えて』で上海国際映画祭監督賞、『酔画仙』で2002年カンヌ国際映画祭監督賞を受賞。韓国文化の伝統的テーマ〈恨、民族、韓国美、古典〉を現代的な様式で取り上げ、「リアリズム映画」、「民族映画」の美学を完成したと評価されている。

佐藤忠男 [さとうただお]

映画評論家・日本映画学校校長を務める。1930年、新潟県生まれ。国鉄職員、電電公社員を経て、1957年から1962年にかけて雑誌「映画評論」「思想の科学」編集長に。日本映画の研究はもちろん、福岡アジアフォーカス映画祭ディレクター等を務め、アジア、アフリカ、中東の国々との映画による交流を促進。その活動が評価され、2002年、フランス文化勲章、韓国玉冠文化勲章を受勲している。

同時イベントとして、美術館施設内で韓国の美術や演劇、食文化の展示・紹介も行います。

■タイムテーブル+料金

日程	作品	時間	料金
2月24日(土) 日韓映画の新潮流	まぶしい一日	13:00-15:13	500円
	URINARA	15:45-16:45	500円
2月25日(日) 巨匠イム・グオンテクと日本	酔画仙(映倫：R-18)	12:30-14:29	無料
	講演会 巨匠イム・グオンテクの世界	14:40-15:40	無料
	開闢	16:10-18:36	無料

- 前売券の販売はございません。
- 各日、各作品の整理券を午前11:30より配布します。
- 会場が満席となった場合、入場をご遠慮いただくこともありますので、あらかじめご了承ください。
- お問い合わせ先
青森県立美術館映像担当・菅原
青森市安田近野185
TEL 017-783-5243 / 017-783-3000
e-mail bijutsukan@pref.aomori.lg.jp
http://www.aomori-museum.jp